

平成 16 年度事業計画

【研究関係】

1. 造礁サンゴ類の増殖に関する研究

研究所地先におけるサンゴ産卵状況調査

平成 15 年度より継続。夜間に潜水して研究所地先に生息するサンゴの産卵状況を調査する。

クシハダミドリイシ生活史全域にわたる飼育

平成 15 年度はクシハダミドリイシ幼体飼育の光環境を変えたためにプレート上の藻類の繁茂を抑えることができ、平成 15 年 12 月末現在で 1000 個程度の群体が生残した。一部野外で飼育している幼群体があり、水槽内のものと比較しながら更に最適環境の探索を行い、生残率や成長速度の向上を図る。また、閉鎖循環水槽での飼育を再開し、水質環境の詳細を調べる。

着生基盤の検討

従来使用してきたフレキシブルボード（石綿セメント板）が生産中止となっており、更に種苗生産に都合のよい着生基盤の検討を行う。

サンゴ種苗の開発

受精卵から育てた幼サンゴを、放流用種苗とするための方法を開発する。

造礁サンゴ類の生殖周期に関する研究

平成 15 年度にクシハダミドリイシの生殖巣の放出配偶子形成過程を見た。平成 16 年度は配偶子形成過程や生殖腺の発達と水温等の環境要因との関係について検討する。

クシハダミドリイシ幼体の栄養に関する研究

プラナ幼生期から幼体が秋期に褐虫藻を持つまでの期間、何を、どれくらい、どの様にして摂取しているのか調べる。

受精卵の冷凍保存法の開発

受精卵の冷凍保存法の開発を継続する。今年度は、新方式の急速冷凍法を中心に取り組む。

2. ウミガメ関係

大岐の浜におけるウミガメ類の上陸・産卵状況の調査及び産卵環境の保全

土佐清水市大岐の浜におけるウミガメの上陸・産卵状況調査を継続する。また、ウミガメの産卵場としての環境保全の資料を得るために産卵及び孵卵環境の調査を行う。

人工衛星によるアカウミガメの行動追跡

平成 15 年度にアルゴス発信器をつけて放流したアカウミガメ「おとめ」の追跡を続け、さらに今年度も産卵期前に雌のアカウミガメを捕獲してアルゴス発信器をつけて放流し、産卵前のアカウミガメの行動追跡を行う。日本ウミガメ協議会との共同研究。

ウミガメ情報ネットワークの発展

平成 15 年度に発足した「遊亀会（仮称）」の会員を増やし、会員相互の情報交換を盛んにする。

大敷網に混獲されるウミガメの調査

日本沿岸を回遊するウミガメ類の生態を解明するための情報源として、定置網において混獲されるウミガメの甲長、甲幅を計測し、標識を装着して放流する。この情報は日本ウミガメ協議会に送り、採捕等があった場合には連絡が来る事になっている。

3. 動植物相関係

幡多地域の植物相に関する研究

山野で植生調査を行い、幡多地域の植物相を把握すると共に、地形による植物相の違いを調べる

大月町海域のサンゴ相調査

串本海中公園センターの野村氏に依頼し、研究所地先を中心とする大月町海域のサンゴ相の調査を行い、今後のモニタリングの基礎資料を作成する。平成 15 年度に予定していたが、1 年延期になった。

大月町海域の海棲動物相調査

情報や標本の収集・整理に努める。

4. その他

ウニを除去することによる藻場復元の試み

平成 14 年 10 月より継続。ウニ除去区では対照区に比べて藻類の生育量が増加しているが、以前みられたガラモ場が形成される様子はない。更に実験を続けて、変化を観察する。平成 16 年度はホンダワラ類の移植も検討している。

ヒメアサリの産卵生態に関する研究

平成 13 年より継続。西泊地先に生息する二枚貝「ヒメアサリ」の生殖周期や生殖細胞の形成過程について研究する

【受託調査・事業等】

現在の所、委託をうける可能性の高い事業は以下の通り。

1. 平成 16 年度竜串地区自然再生推進計画調査（海域調査）

発注者：環境省自然環境局 山陽四国地区自然保護事務所

内 容：竜串湾のサンゴ群集を中心とする生態系を再生するための方策を策定する調査。平成 15 年度から単年度 2 年間。陸域調査及び総括は(財)自然環境研究センターが担当。

2. サンゴ移植事業

発注者：宇和海海中資源保護対策協議会

内 容：平成 13 年度からに愛媛県西海町で行っている移植事業。移植の指導と追跡調査を実施。

【啓蒙・広報活動】

1. 和文機関誌「CURRENT」の発行継続（季刊：4, 7, 10, 1 月）
2. 英文機関誌「Kuroshio Biosphere」の発行（年 1 回）
3. ホームページの運用（情報公開を含む）
4. 小学生対象のサマースクール開催
5. 中学生対象のサマースクール（黒潮実感センターと合同）の開催